

編集後記

元日に「10号」を公刊したばかりですが、もう「11号」ができあがりました。11号は20号につながる、次の第1歩です。その第1歩を記念するにふさわしい「長崎県央看護学校特集」を編んでみました。長崎県央看護学校は、学校全体で「看図アプローチ」に取り組んできました。2021年11月には「長崎県央看護学校第15回看図アプローチ研究会」を開催しています。これまでに、長崎県央看護学校は多くの実践と研究成果を蓄積してきました。

その成果の一端を11号で紹介しています。

巻頭を飾るのは田中伸子論文です。田中先生は、長崎県央看護学校の看図アプローチ実践を牽引してきてくれました。田中先生は論文の中でつぎのように書いています。

「楽しいから看図アプローチで授業を考えるのだが、楽しいだけかというそうではない。学習者と共に悩みぬいて授業にしていく過程は決して『楽』ではない。学習者が能動的に参加する授業は一朝一夕にはできない。教える側が日々、授業づくりに真剣に取り組み、学習者がその授業の価値に気づき能動的に行動し始めたときに可能になる。」

これはまさに至言です。田中論文は、授業づくりやカリキュラムマネジメントの実際を考えていくための好論文です。

看図アプローチを活用した授業づくりでは、ビジュアルテキストを創ったり選んだりすることが、まず大切になります。田中論文で用いているようなビジュアルテキストを使えば、活発なアクティブラーニングが引き出されていきます。しかし、ごく稀にですが、看図アプローチ授業の流れに乗り切れない学生も出てきます。渡邊令子先生は、そのような学生も学びを表現できるように授業改善したいと思いつけてきました。そして、この問題を解決するためには「学生たちに自分の感性で選んだビジュアルテキストを持ってきてもらえばいいのではないか」と思いつきました。ここから「**持ち寄り型ビジュアルテキスト**」というアイデアが生まれました。これは長崎県央看護学校の実践の中から生まれた**大発明**です。渡邊令子他論文ではこの大発明についても詳しく説明しています。「看図アプローチを活用してみたいがビジュアルテキストをどのように創ったらいいかわからない」と思っている先生方には、渡邊令子他論文は「目からうろこ」の気づきを与えてくれると思います。

長崎県央看護学校には「専門課程」と「高等課程」があります。専門課程は准看護師資格を取得している方を対象にした教育課程であり、高等課程は准看護師資格を取得したい方のための教育課程になります。これまでは、専門課程において看図アプローチを導入したカリキュラムマネジメントや授業づくりがなされてきました。今般、カリキュラム改正を契機として高等課程でも看図アプローチを柱とすることが決定しました。これからは、高等課程の先生方も「チーム県央」の一員として看図アプローチを推進していくことになります。そこで看図アプローチ理解を深めるために、「第1回 高等課程看図アプローチ研修会」をリモートで開催しました。11号、3番目の論文はその記録です。研修会は全国看図アプローチ研究会事務局長の山下雅佳実先生が企画実施しました。これから看図アプローチに取り組んでみたいという学校で活用できるプログラムモデルが紹介されています。

11号という、新しいスタートに相応しい論文がそろいました。ご一読ください。

文責 鹿内信善

全国看図アプローチ研究会研究誌 11 号

発行年月日 2022年2月20日

編集 「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員

石田 ゆき

伊藤 公紀

鹿内 信善*

萩尾耕太郎

山下雅佳実

渡辺 聡

(* 印は編集代表)

発行 全国看図アプローチ研究会

kanzu-approach.com



事務局長 山下雅佳実 (中村学園大学短期大学部)

編集長・DTP 石田ゆき